



大正



だより 10月号



周年の秋

仲間とともに

未来へつなぐ

教務主任

坂上

大介

「誰にでも輝ける場所がある」

横浜市立小学校のオリパラ教育の一環としてパラリンピック卓球日本代表の岩淵幸洋選手を招き、子どもたちへの講演会が開催されました。この言葉は、その講演会の中で、子どもたちに向けて伝えられたものです。

岩淵選手は、生まれつき左足に障害がありましたが、幼い頃から様々なスポーツに挑戦し、中学から卓球を始めました。高校3年の時にパラリンピックの国際大会に初出場をした後、国内外の大会で活躍しました。そして、2016年リオ、2020年東京で開催されたパラリンピックに日本代表選手として出場しました。

講演会では、パラリンピアン活躍の様子だけでなく、日常生活での困難や試合に勝つための努力などにふれながら、「当たり前は人それぞれであること」や「他者への思いやりの大切さ」について話されました。そして、障害の有無にかかわらず人は「誰にでも輝ける場所がある」ので頑張ってほしいというエールが送られました。

子どもたちの感想には、「日本代表選手と小学生に共通点があることに感動しました。」「自分にも輝ける場所があるんだという思いをもってこれからも頑張っていきたい。」など書いてありました。それを見ると、その講演会で多くの子どもたちが岩淵選手から勇気や希望をもらったことが分かりました。

岩淵選手の講演会を聞いている時、毎年秋に開催される運動会のことを思い出しました。子どもたちにとって運動会は、まさに「誰にでも輝ける場所」であってほしいです。

運動会練習の開始時に競技や演技の内容を伝えると、それに対する期待や不安など様々な反応がみられます。子どもたちの得意・不得意がそれぞれだからです。そのため、最初はなかなかうまくいきません。しかし、練習を繰り返す中で技術を習得し、楽しさを感じるようになると、一気に動きが変わります。その顕著なものが演技です。

曲に合わせて踊ることは、日常生活ではなかなか親しみがなく、恥ずかしさや難しさを感じてしまいがちです。しかし、友達との教え合いの中で振りを覚えると楽しくなり、いつの間にか曲が流れると自然と体が動くようになります。さらに演技のねらいを理解したり、曲の世界に入り込んだりすると一気に美しさが高まります。こうやってみんなで創り上げることで、個人としての楽しさや集団としての達成感を味わうことができます。そして、そのような姿は、見ている人に感動を与えるのです。

「誰にでも輝ける場所がある」、その裏には一人ひとりが得意なことだけでなく、苦手なことにも向き合い、克服する努力があるのだと思います。

10月になり、運動会に向けた学年や学校の取組が本格的に始まりました。今年度の「大正小学校運動会」は、110周年を記念した運動会です。運動会のスローガンも「いいまる」の頭文字を活用して

「いっしょうけんめい いっちだんけつ

まけてもかっても るんるんたのしもう」

に決まりました。プログラムや競技、演技の中に子どもたちの声を取り入れた様々な工夫がされる予定です。

子どもたちの「やる気いっぱい えがおいっぱい」の姿が多くのも面で見られるよう、指導・支援をしていきます。

